

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	学舎P&A		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 15日		～ 2026年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年 2月 15日		～ 2026年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援を基盤とした療育を実施しており、利用児童一人ひとりの特性や発達段階を的確に捉えながら、それぞれのペースに応じた支援の提供を行っている。これにより、利用児童が安心して活動に取り組むことができる環境の形成を図っている。支援内容については、学習支援を中心としたプログラムを体系的に展開し、基礎的な学習習慣の定着とともに、学びにつながる経験を段階的に積み重ねていくことを重視している。さらに、支援効果の向上を図る観点から、家族支援についても重要な位置付けとしている。保護者との連携を密にし、連絡・報告・相談を適切に行うことで、家庭との情報共有を図りながら、一貫性のある継続的な支援体制の構築に取り組んでいる。	本事業所においては、特定の独自の取り組みに依拠するのではなく、利用者一人ひとりのニーズに即した支援を丁寧に積み重ねることを基本方針としている。支援の実施にあたっては、支援プログラムに基づいた内容を軸とし、職員がその趣旨や具体的な支援方法を十分に理解したうえで適切に実践できるよう体制づくりを行っている。さらに、職員が円滑に支援業務を遂行できるよう、日常的なサポート体制の整備や情報共有の徹底を図り、組織全体として安定した支援の提供につなげている。	地域の教育機関等との連携体制を活用し、利用者がさまざまな分野に触れることのできる機会の創出に取り組んでいる。その中で、幅広い学びや経験につながる機会を提供することにより、利用者の興味・関心の拡大や成長の促進を図っている。これらの取り組みの効果を一層高めるため、関係機関との連携基盤の強化を重要な課題として位置付けている。その具体的な対応として、情報共有や意見交換の機会を積極的に設けるとともに、関係機関との調整や連携に関する業務を継続的に推進している。
2	利用者が安心して活動に取り組めるよう、環境面の整備にも積極的に取り組んでおります。集中しやすい空間づくりを目的として、事業所内は常に整理整頓された状態を維持するよう努めています。また、物品を必要最小限に抑えることで十分な活動スペースを確保し、転倒などの事故防止を図るなど、安全面の向上にもつなげています。	不要な物品を置かず、整理整頓された空間を維持することで、利用者が療育や学習に集中できる環境づくりに努めている。また、視覚的な刺激を必要最小限に抑えることにより、落ち着いて活動に取り組める空間を確保し、安心して過ごせる事業所運営を行っている。さらに、適切な環境の中で学ぶことにより、個人差はあるものの、それぞれのペースに応じて能力の向上が図られるものと考えている。そのため、利用者一人ひとりの特性や状況に配慮しながら、集中して活動できる環境整備を継続的にを行い、安心して学びや経験を積み重ねられる支援体制の構築に努めている。	事業所全体として高い意識を維持し、継続的に質の高い業務を遂行できるよう、職員一人ひとりが安心して働ける職場環境の整備を重視している。また、業務の効率化や職員間の円滑な連携を図るとともに、職員のモチベーションの維持・向上にも配慮し、環境整備および福利厚生への充実に向けた取り組みを推進している。これらの取り組みにより、安定した運営体制の確立を図り、利用者に対して継続的かつ質の高い支援を提供できる体制の整備に努めている。
3	スタッフ教育および人材採用についても継続的に取り組み、職員一人ひとりの専門性および支援力の向上を図っている。また、継続的な研修の実施や指導体制の整備を通じて、質の高い人材の確保および育成に努めている。これらの取り組みにより、利用者一人ひとりの状況やニーズに応じた質の高いサービス提供の実現を図っている。	職員一人ひとりが心身のゆとりを保ち、安定して勤務を継続できるよう、一定の私的時間を確保できる勤務体制の整備に努めている。また、就業時間については過度な負担とならないよう配慮し、無理のない勤務環境となるよう設定している。	業務外における職員間の交流機会として、食事会等の場については参加を任意としつつ、希望する職員が気軽に参加できる機会として提供している。こうした取り組みを通じて、円滑なコミュニケーションの促進および相互理解の深化を図り、職場全体の連携強化につなげている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別療育を主軸とした支援を実施しているため、利用者の急な欠席等が生じた場合には、予定していた療育時間に空きが発生することがある。その際、一時的に時間に余裕が生じる場合もあるが、職員間での情報共有を行いながら、支援内容の見直しや環境整備、教材の準備等に充てることで、次回の療育の質の向上につながる時間として有効に活用するよう努めている。これらの取り組みにより、利用者一人ひとりに対して、より充実した支援を提供できる体制の構築を図っている。	集団活動の充実および内容の質の向上を図るうえで、適切な人員配置の確保は重要な基盤であると捉えている。このため、活動内容や利用状況に応じた柔軟な人員体制の見直しを行い、必要に応じて職員の増員も含めた体制強化を検討していく。あわせて、職員一人ひとりの専門性および支援力の向上を目的として、研修機会の充実や学習機会の確保を図ることが重要であると認識している。さらに、職員が安心して業務に従事できるよう、働きやすい環境の整備や職場環境の改善にも継続的に取り組み、事業所全体として安定的かつ質の高い支援を提供できる体制の構築を進めていく。	支援体制の充実を図るため、求人活動については継続的かつ計画的に取り組む、必要に応じた人員の確保を進めていく。一方で、採用にあたっては慎重な判断を行い、福祉支援に求められる適性や姿勢について十分に確認したうえで、適切な人材の選定を行う。また、採用後においても適性や支援状況を踏まえた評価を行い、必要に応じて配置や役割の見直しを行うなど、支援の質の維持・向上に努めている。利用者の安全確保を最優先とし、心身両面において安心して過ごせる支援環境の維持に配慮しながら、適切な人員配置による体制整備を図っていく。
2	本事業所においては、利用者の意向として個別での活動を希望される傾向が見られ、その結果として集団活動への参加機会は相対的に限定的な状況となっている。一方で、集団活動についても継続的に機会を設けているが、現時点では参加人数が限られている状況にある。こうした状況を踏まえ、利用者一人ひとりのニーズや特性を尊重しながら、負担の少ない形で参加できるような環境調整や働きかけを行い、今後は集団活動への参加機会の拡充および参加促進に取り組んでいく。		長期休暇や祝日等の時間を有効に活用し、利用者同士の相互交流を促進するとともに、社会性の向上につながる集団活動の機会を計画的に確保している。あわせて、支援内容が特定の分野に偏らないよう配慮し、支援プログラムに基づいた多面的かつバランスの取れた活動の提供に取り組んでいる。
3			